

属人性を排除した「保守」の効率化と価値を生む「改修」へのプロセス改革 実践と事例講座【会場】 (4124100)

現在のソフトウェア部門の業務は、新規開発や長い期間をかけるいわゆる開発よりも、既存のソフトウェアを活用した「改修」や「保守的な開発」が多いのが現状です。そもそも、「保守」・「改修」は、新規開発等とは大きく異なる作業が存在します。「保守」「改修」のスペシャリストとして人生を捧げている講師より、講義と演習を通して学ぶ講座です。

開催日時	2024年10月3日(木) 10:00-17:00会場
カテゴリー	IS導入（構築）・IS保守 専門スキル
講師	馬場辰男 氏 (ソフトウェア・メンテナンス研究会 幹事) ・1977年 資源・エネルギー会社のIT子会社(現株式会社NTTデータCCS)に入社し、石油資源探査システム、金属資源探査システム等の開発、数値解析業務に従事 ・1997年 同社科学技術システム事業部科学環境システム部部長 ・2002年 日本規格協会 JIS X0161 (ソフトウェア保守) 原案作成委員会委員 ・2008年 日本規格協会 JIS X0161 ソフトウェア保守プロセス(SMT)委員会委員 ・2008年 株式会社NTTデータCCS 執行役員・科学ソリューション事業本部本部長 ・2014年 株式会社NTTデータCCS 顧問 ・2016年 株式会社地圏環境テクノロジー 顧問およびITコンサルタント(個人事業主) 第1種情報処理技術者、ISMS主任審査員、QMS主任審査員
参加費	J U A S 会員/ITC : 35,200円 一般 : 45,100円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数1枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (NBF東銀座スクエア2F)
対象	保守・改修にかかわる、情報システムグループ会社管理者、システムインテグレータ管理者の方など、「保守・改修」で攻める組織になる改革推進の方 中級
開催形式	講義、グループ演習
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態

会場のみ(オンラインなし)

■テキスト

当日配布

■開催日までの課題事項

特になし

本コースの特徴

- (1) 属人性を排除した「保守」の効率化ノウハウを習得(業務効率化、生産性向上、コストダウン)
- (2) 更に価値を生む「改修」への仕組みノウハウを習得(考える・提案する組織改革、人財育成改革事例)
- (3) ISO/IEC/IEEE14764 (JIS X0161) をベースに、広義の保守(「改修」を含む)作業の理解を深める
- (4) 「保守」「改修」を阻害する要素 技術的負債の概念を習得
- (5) 業務改善計画書を作成し、自社に持ち帰れる

現在のソフトウェア部門の業務は、新規開発や長い期間をかけるいわゆる開発よりも、既存のソフトウェアを活用した「改修」や「保守的な開発」が多いのが現状です。

そもそも、「保守」・「改修」は、新規開発等とは大きく異なる作業が存在します。

既存システムの把握、既存システムの品質のレベル、構成要素間の複雑度、整合性 等々に応じた整合性の確保等が必要となります。

その作業には難しさを伴うことが多いにもかかわらず、保守用のプロセスや体制が未整備で、担当技術者の努力に頼っているのが現状です。難しさを共有できず、技術者頼りにしていると、モチベーションの低下にもつながり、「保守」・「改修」での重大事故の恐れも高くなります。

特に「改修」の作業効率化により、より低コスト・短時間で既存ソフトウェアの価値を高めることができるため、効率化に向けた仕組みからの改善が大切になります。

更に、近年組織のDX化が進む中、「技術的負債」に注目が集まっております。

技術的負債とは、開発保守において「効率」だけを重視した結果、システムの複雑化を招き、保守運用や開発コストの肥大化を招いた状況です。

そのようなならないための対策が必要です。

そこで今回は、「保守」・「改修」について

1. 「保守」・「改修」を含む広義の保守とは（ソフトウェア保守規格を参照）
2. 属人性を排除した「保守」の効率化ノウハウ（業務効率化、生産性向上とコストダウン）
3. 更に価値を生む「改修」への仕組みノウハウ（考える・提案する組織改革、人材育成改革：事例）
4. 技術的負債の評価と対処方法
5. 業務改善計画書作成

について、「保守」「改修」のスペシャリストとして人生を捧げている

講師より、講義と演習を通して学ぶ講座をご用意いたしました。

「保守」・「改修」にかかわる、情報システムグループ会社管理者、システムインテグレータ管理者の方など、「保守・改修」で攻める組織になる改革推進の方、ぜひご参加ください。

◆内容・スケジュール◆

1. ソフトウェア保守の定義について
 - ・ソフトウェア保守の国際規格ISO/IEC/IEEE14764の定義
 - ・「保守」「改修」は広義のソフトウェア保守の仲間
 - ・広義のソフトウェア保守の多様性
 - ・広義のソフトウェア保守の現状（JUAS調査より）
2. 「保守」「改修」のプロセスとは
 - ・同国際規格のソフトウェア保守プロセスとは
 - ・ソフトウェア保守プロセスの詳細
 - ・「保守」も「改修」もプロセスは基本要素は同じ
3. 「保守」「改修」のコスト構造について
 - ・「改修」見積の事例演習（個人⇒グループ⇒全体）
 - ・新規開発のコスト構造との相違点の整理
4. 属人性を排除した「保守」の対応ノウハウとは
 - ・積極的な維持する保守（維持保守）とは
 - ・積極的な維持保守の効果
 - ・積極的な維持保守の対応事例
 - ・維持する保守の対応ノウハウ（演習）
5. 更に価値を生む「改修」の効率化ノウハウとは
 - ・ソフトウェアの価値の考え方
 - ・ソフトウェアの価値を変化させる要因
 - ・急激な変化に対応する「改修」対応に必要な要素
 - ・プロアクティブエンハンスとは
 - ・プロアクティブエンハンスの効果
 - ・プロアクティブエンハンスの効果的な進め方
 - ・プロアクティブエンハンスの対応事例
6. 「改修」の効率化を更に進める仕組みとは

- ・「改修」の効率化を更に進める要件とは
- ・「改修」効率化を考える・提案する組織改革とは
- ・目指す組織改革事例
- ・「改修」効率化を実現できる人材育成改革とは
- ・広義のソフトウェア保守に求められるスキル
- ・広義のソフトウェア保守に求められる能力
- ・目指す人材育成のポイント

7. 技術的負債の評価と対処方法

- ・技術的負債の概念
- ・技術的負債への取り組み事例
- ・技術的負債の評価事例（簡易調査表）

8. 業務改革計画概要の作成

- ・演習

9. まとめ

- ・「保守」「改修」対応は将来も増加（JUAS調査より）
- ・中長期的成果目標を持ち、攻めの「保守」「改修」を目指す

◆参加者の声◆

- ・保守を体系的に教える講座は少ないが、ほとんどのシステム部門に当てはまるいい内容の講座だった（メーカー）
- ・積極的な維持保守の大切さ、方法が理解できた（金融）
- ・講師のたくさんの事例とユーザー部門としてためになる話や、具体的なアドバイスを頂けたのでよかった（電力）